

「ひろしま」学びのサイクルの実現をめざして

-知識・技能を活用して思考し表現する力
及び学習習慣の定着を図る取組を通して-

広島県教育委員会

はじめに

広島県では、新たな「教育県ひろしま」の創造に向け、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために教育の「中身づくり」に精力的に取り組む、教育改革を推進しているところである。

平成14年度から、小学校第5学年及び中学校第2学年を対象に、広島県独自の学力調査である「基礎・基本」定着状況調査を実施している。

こうした取組により、基礎的・基本的な学習内容は着実に定着してきている。しかし、県の学力調査の結果から、思考力・表現力に課題があること、また、全国学力・学習状況調査結果からは、B問題の正答率が低く、知識・技能を活用する力に課題があることも明らかになった。

そこで、平成19年度広島県検証改善委員会において、全国学力・学習状況調査結果の分析及びその分析に基づいた指導改善支援プラン（「ひろしま」学びのサイクル）を作成し、思考力・表現力を育成するための指導内容及び指導方法を報告書、リーフレットやDVDにまとめ、県内に普及を図った。

平成20年度は、「全国学力・学習状況調査等

を活用した学校改善の推進に係る実践研究」事業の調査活用協力校において、平成19年度に開発した指導内容及び指導方法等の実践及び普及を図った。

I. 広島県教育委員会における取組

1. 事業内容について

(1) 事業概要

平成21年度は、知識・技能を活用して思考し表現する力及び学習習慣の定着を図るため、本委託事業において、対象を小学校にしほり、アクションプラン推進校を2地域（福山市立の小学校3校、三原市立の小学校5校）で選定し、アクションプラン地域推進会議を中心に、次の取組を行うとともに、研究会等を通して、その成果の普及を図ったところである。

- ・ 課題である知識・技能を活用して思考し表現する力を育成する指導の充実。
（授業改善のPDCA 分析→計画→実践→改善 の確立）
- ・ 課題である「学習習慣の定着」に向けて推進地域内で統一した取組の開発、実践。



なお、アクションプラン推進校については、次の4点を基準とし、県内の2地域（福山市及び三原市）から市教育委員会の核となる8小学校（福山市立日吉台小学校、福山市立瀬戸小学校、福山市立新涯小学校、三原市立田野浦小学校、三原市立須波小学校、三原市立南小学校、三原市立小坂小学校、三原市立本郷小学校）を選定した。

- ・ 全国学力・学習状況調査において、学力等の課題が見られること。（推進地域）
- ・ 地域の学力等の課題の改善に向けて意欲的であること。（市町教育委員会、推進校）
- ・ 研究推進の中心となる校長がいること。（推進地域）
- ・ 研究全般についてリーダーシップをとる教員がいること。（推進地域）

本事業においては、次の2点を目指すことにより、児童の学力向上を図った。

- ① 学力調査等の分析→課題の明確化→授業改善案の検討→実践→検証という授業改善のP D C Aを教員一人一人が日常的な授業研究の中で行う習慣を付け、課題となっている思考力・表現力を育成する指導方法を開発すること。
- ② 広島県検証改善委員会が提案した学校における授業を家庭学習へ繋げるという「ひろしま」学びのサイクルを確立させ家庭における学習習慣を定着させる取組を行うこと。

そのために、アクションプラン推進協議会などを通して、読み取った情報を根拠として示しながら自分の考えを書くなどの思考力・表現力を育成する指導方法、家庭学習の定着を図る取組などを検討し、その有効性を明らかにした。また、各アクションプラン推進校に対して学校訪問指導を行い、「ひろしま」学びのサイクルの確立をめざした授業改善を進めるとともに校内研修の充実を図った。

具体的な取組内容について

【アクションプラン推進協議会】

2回のアクションプラン推進協議会を開催し、アクションプラン地域推進会議及び推進校へ計画的な指導を行った。

【学校訪問指導】

各校に対して、1回の学校訪問指導を行い、研究授業や研究協議を通して、研究担当者に対して指導を行った。

【アクションプラン地域推進会議】

市教育委員会がアクションプラン地域推進会議を開催し、アクションプラン推進校へ計画的な指導を行った。

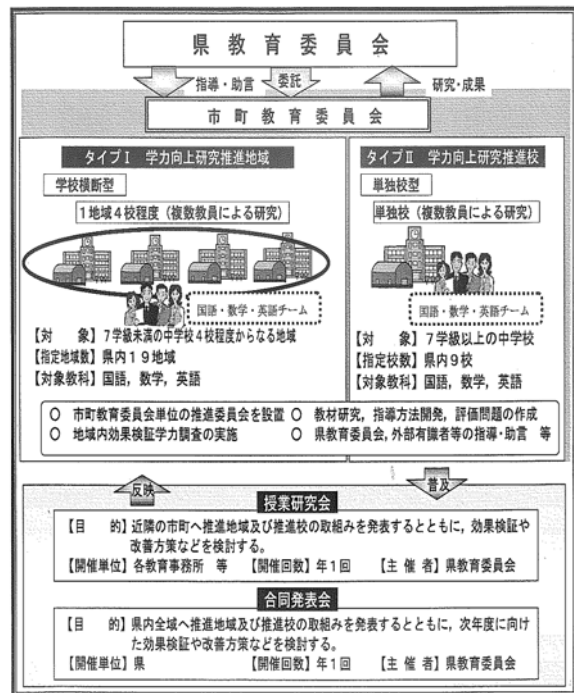
- ・ 思考力・表現力を育成する指導方法を検討した。
- ・ 成果を検証するための評価問題集を作成し、域内の学校で実施した。
- ・ 家庭学習の質を高めることにつながる授業改善、課題（宿題）の出し方とその内容、保護者との連携等を協議した。また、家庭学習定着のための手引きを作成し配布した。

【アクションプラン推進校】

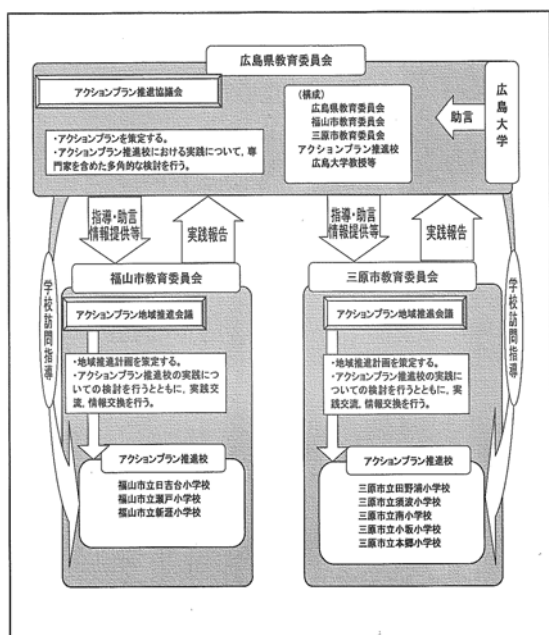
各推進校は次の2点を中心に研究推進を行った。

- 日常的な授業研究の中でのP D C Aサイクルの確立
 - ・ 授業評価表により自分の授業を振り返るとともに、他者からの評価を授業改善に生かした。
 - ・ 単元末テスト・評価問題を実施し、つまずきの大きいところへは繰り返し学習を行うなどの授業改善を進めた。
- 授業の内容に即した課題（宿題）の出し方と評価の在り方

なお、中学校においても、県費事業として中学校学力向上対策事業を実施することで、総合的に上記課題の解決を図っている。



(2) 実施体制



(3) 研究成果

知識・技能を活用して思考し表現する力及び家庭での学習習慣の定着を図るため、アクションプラン推進校（福山市立の小学校3校、三原市立の小学校5校）の実践によって、次の3点の成果があった。

- アクションプラン推進校においては、指導改善支援プラン（「ひろしま」学びのサイクル）に基づく授業実践を行い、授業改善を図ることができた。（各アクションプラン推進校に対して、県教育委員会より指導主事を派遣し、指導を行っている。）また、アクションプラン推進校は、学力調査の結果分析に基づく指導改善事例及び評価問題を作成し、授業改善につなげることができた。
- アクションプラン推進協議会及びアクションプラン地域推進会議において、アクションプラン推進校の授業研究や研究経過報告等の実践に基づく協議を行い、推進地域間、推進校間の研究交流を進めたことで、それぞれの取組を充実させることができた。また、アクションプラン地域推進会議で、家庭での学習習慣の定着を図るための「家庭学習の手引き」を作成することができた。
- アクションプラン推進校において、学力調査の結果分析に基づいた指導実践例や家庭学習の定着に向けての実践例を研究発表会等で、県内に普及することができた。

具体的な取組内容について

【アクションプラン推進協議会】

- アクションプラン推進協議会の会場校において「全国学力・学習状況調査結果の分析に基づいた指導改善例（算数科）」を授業実践し、研究協議することを通して、知識・技能を活用して思考し表現する力の育成をめざした授業づくりをより具体化させることができた。
- 各アクションプラン地域推進会議の進捗状況を把握し、それに対応した指導をすることで、各推進地域、推進校の取組を推進させることができた。

【学校訪問指導】

- 学校訪問を通して、事業目的の理解を図るとともに研究の方向性を示すことで、各アクションプラン推進校の研究を推進させることができた。

【アクションプラン地域推進会議】

- 短期間で集中的な取組であったが、アクションプラン推進校の進捗状況を把握し、指導することで、推進地域で共通した取組を進めることができた。
- 家庭学習の定着を図るための「家庭学習の手引き」をそれぞれの推進地域の特色を生かしながら作成することができた。

【アクションプラン推進校】

- 短期間で集中的な取組となったが、学力調査等の分析に基づいた指導改善に組織として取り組むことができた。
- 各アクションプラン推進校では、国語または算数の指導事例を作成し、授業実践を行い、その成果を評価問題やアンケートを通して整理することができた。

2. 普及啓発と今後の取組について

(1) 成果の普及啓発に関する取組

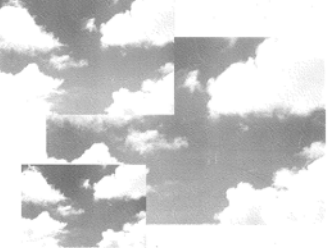
【学力向上のための実践交流会】

平成22年1月9日広島大学において、県内教員及び教育関係者等約1,050名が参加する実践交流会を開催し、福山市アクションプラン推進校3校及び三原市アクションプラン推進校5校の実践発表を行い、研究成果の普及を図った。

平成21年度

学力向上のための実践交流会

一思考力・表現力を高めるための指導の在り方一



主催 広島県教育委員会
 期日 平成22年1月9日(土)
 場所 広島大学
 サタケメモリアルホール 他
 (同時開催 各教育研究団体「教材・教員フェア」)

【広島県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」】

本事業の実践内容の詳細について、広島県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」に掲載し、全県へ、その実践の普及を図った。

広島県教育委員会ホームページ
ホットライン教育ひろしま

◎文 6月4日から6月10日は「歯の衛生週間」です
 ◎手 大きくする
 ◎は には

教育委員会の概要 | 施策の概要 | 幼児教育 | 小・中学校教育 | 高等学校教育 | 特別支援教育
 生涯学習・文化・スポーツ | 生徒指導 | 健康と安全 | 是正指導 | 人材育成・能力開発

学力調査活用アクションプラン推進事業

このページはPDFファイルで作成しています。
 PDFファイルの閲覧にはAcrobat Readerが必要です。こちらから無料ダウンロードできます。

- 1 事業推進計画
- 2 アクションプラン推進地域 (福山市 小学校3校、三原市 小学校5校)
 - 福山市アクションプラン地域推進会議
 福山市立日吉台小学校
 福山市立瀬戸小学校
 福山市立新瀬小学校
 - 三原市アクションプラン地域推進会議
 三原市立田野浦小学校
 三原市立須波小学校
 三原市立南小学校
 三原市立小坂小学校
 三原市立本郷小学校
- 3 アクションプラン推進協議会

◎ 年間2回のアクションプラン推進協議会を計画・実施

推進会議	事業内容
第1回 10月7日	・事業の趣旨説明 ・年間スケジュールの確認
第2回 12月16日 三原市立小坂小学校	・授業研修(書教) ・研究協議(各校の実践状況について) ・ワークショップ型授業研修

と報告書にリンクします) (※ 地域推進会議名をクリックする)

アクションプラン地域推進会議においては、アクションプラン推進校の研究授業、協議会を市内小中学校に公開する等、市全体へとその実践の普及を図った。

三原市家庭学習のしおり

家庭学習のしおり (保護者のみなさんへ)

小学校の学習は、生涯にわたって学び続けるという生涯学習の基礎づくりでもあるといえます。子どもたちは、「もっとよくになりたい」「もっとできるようになりたい」という気持ちを持っていきます。この子どもの願いを実現させるためには、学校と家庭とが連携してとりくむことが大切です。

三原 金のルール

生活のリズムを整えよう
 早寝 早起き 朝ごはん 読書 あいさつ 靴ぞろえ

学習するときは

- ☆ よい姿勢で学習する。
- ☆ 机の上の整理・整頓をする。
- ☆ 持続力・集中力を育てる。
- ☆ フリビを短くしたり、食べ物を食べなげらしない。
- ☆ ていねいな字を書く。
- ☆ 後片付けをきちんとする。

家庭学習のめやす(宿題を含めて)

- ☆ 学習時間
 - 1・2年 30分以上
 - 3・4年 45分以上
 - 5・6年 60分以上
- ☆ まずは、担任から出る「宿題」を最初にする。
- ☆ 予習・復習など自分ができることにチャレンジする。

☆ 短い時間でも「机に向かう」という習慣を身につけさせましょう。
 ☆ 子どもの様子に関心を持ち、たくさん会話を楽しみましょう。
 ☆ 家庭の温かい声かけや励ましで子どもの自信とやる気を育てましょう。
 ☆ 子どもの学習の様子は、いろいろな場面を通じて、担任にもお知らせ下さい。

三原市にある図書館・資料館・通称などに出かけてみるのは
 ○三原市立図書館 ○歴史民族資料館 ○権左寺のどるま
 ○古墳…郡年代古墳・梅本平古墳 ○三原城址・小早川隆景の墓

学習習慣を小学生のうちからしっかりと身につけさせましょう。
 「基本的な学習習慣」は「自主的な学習習慣」へとつながります!

(2) 来年度以降の取組

平成21年度は、学力調査活用アクションプラン推進事業で指定した2地域(福山市立の小学校3校、三原市立の小学校6校)において、授業改善のPDCAサイクルを確立するとともに、課題である知識・技能を活用して思考し表現する力を育成することをめざし、指導の充実を図った。また、「家庭学習の定着」をめざし、推進地域内で統一した取組の開発を行った。

平成22年度は、この学力調査活用アクションプラン推進事業の研究成果を生かし、次の2点の取組を進める。

① アクションプラン推進校で作成した指導事例(国語科・算数科)及び平成19年度から作成してきた指導事例を実践するとともに、評価問題の結果分析からその改善を図る。その際、評価問題については、平成22年度及びこれまでの全国学力・学習状況調査を用いたり、学力調査を参考として作成したりする。また、これまでの学力調査の結果を総合的に分析し、新たに「知識・技能を活用して思考し表現する力」を育成する指導内容及び指導方法の開発に取り組む。

② 家庭での学習習慣の定着をめざし、推進地域で作成した「家庭学習の手引き」の効果的な活用方法及び指導方法の研究を進め、授業と家庭学習のリンクを図る。

Ⅱ. アクションプラン推進校における取組事例

取組事例①

「思考力・表現力を育成するための授業改善」
三原市立須波小学校

(1) 学校の状況について

本校は、広島県の南東部に位置し、全校児童113名、6学級の学校である。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等 を活用した取組について

① 教科の調査結果の分析（全国学力・学習状況調査）

示された解決方法を理解し、見方を変えた別の方法を考え、それを数学的に表現できる力が不十分である。

② 調査結果からの課題

ア 誤答分析

- ・ 正しく立式した児童は 63.2%であるが、その中で、式と言葉で求め方を説明することが不十分な児童が 26.3%であった。また、示された解決方法が理解できず説明が不十分であった児童が 36.8%であった。

イ 課題となる力

- ・ 示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを数、言葉、式を用いて説明する力。

ウ 指導上の課題

- ・ 問題文から立式し、それを説明させる学習活動が多く、式を読み、理解し活用させる学習活動が少ない。

③ 学年 第3学年

④ 単元の紹介

ア 単元名「まるい形をしらべよう」

イ 単元の目標

- ・ 円、球及びそれらの中心、半径、直径の意味を理解させ、「まる」を円や球という数学的な概念に深めていく

ウ 単元の展開（指導計画・全8時間）

次	学習内容(時数)
1	円の中心、直径、半径の意味を理解する。(3)
2	コンパスを活用して円を描く。(2)
3	球の中心、直径、半径の意味を理解する。(3)

⑤ 授業改善のポイント

ア 指導方法の工夫

- ・ 球の半径や直方体の辺の長さを求める式を提示し、式の意味を図や言葉、式を活用して説明する学習活動を設定する。
- ・ 提示された解決方法を活用し、問題を解く活用場面を設定する。

イ 教材の工夫

- ・ 球体と直方体の模型を用意し、式の意味を考えさせたり、説明させたりする。

ウ 評価の工夫（評価問題、調査問題も含む）

- ・ 事前、事後の評価問題による評価
- ・ ノートの記述分析

⑥ 検証授業の様子（児童の変化）

児童のノート

図に必要な数字やキーワードを書き込む。

- ① 箱の横の長を求める式を読み取らせた。
- ② 不十分な説明の仕方と、例題の説明とを比較させることで、説明の仕方を学ばせた。
- ③ 同じ方法で、箱のたての長さを求めさせ、その求め方を説明させた。

⑦ 検証

単元の学習指導後評価問題

□「円と球」

□ ドーナツを作ります。まず、小まをねって平らし、半径9 cmの大きな円の型をとりま。

次に半径3 cmの小さな円の型で、あなを円のようにあけます。

□ 円の残った部分の直径アとイの長さはあわせて何 cm ですか。

式

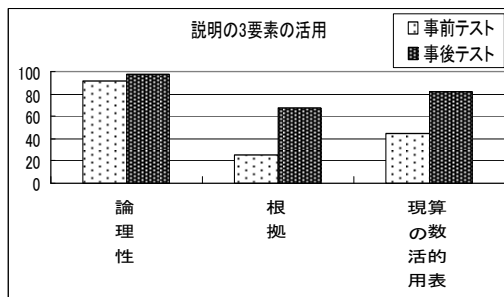
□ $9 \times 2 = 18$

□ $3 \times 2 = 6$

$18 - 6 = 12$

□ □ 答え 12 cm

式の意味をせつめいしましょう。



※式の意味を図や言葉、式を活用して説明する学習活動を設定することは、「式を読み、論理的に説明できる力」を育成していく方法として有効であったと考察する。

⑧ 成果と課題

ア 成果

- 示された式と言葉、図を使って解決方法を説明し合い、その解決方法を活用して、見方を変えた問題の解決方法を説明することができた。

イ 課題

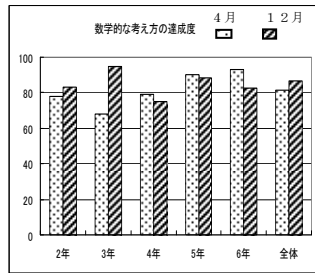
- 「直径は半径の2倍」「直径の3つ分」などの既習学習を根拠に説明することが不十分であった。

ウ 改善策

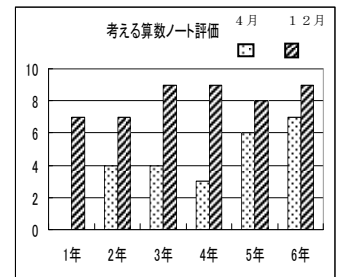
- 既習学習をキーワードとして示し、根拠を明確にして式を読ませる。

① 児童の思考力・表現力

児童の思考力

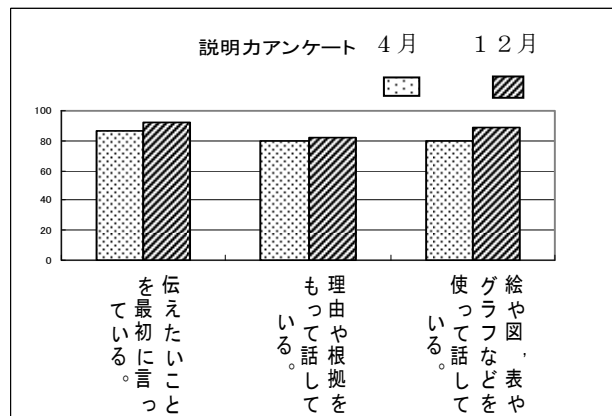


児童の表現力

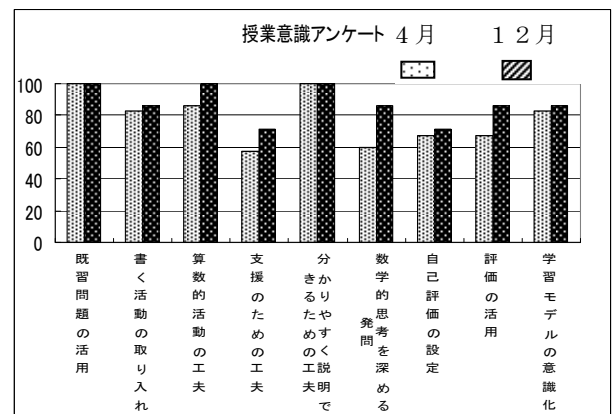


② 児童の意識の変容・授業者の変容

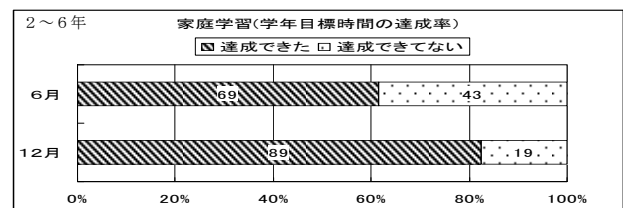
児童の意識の変容



授業者の変容



③ 家庭学習の定着



- ノート指導と話形指導により、児

(3) 成果について

童の思考力・表現力が向上した。

- ・ 説明力に焦点化した指導で児童と教職員の意識が向上した。
- ・ 家庭学習時間の学年目標を達成した児童の割合が向上した。

(4) 来年度以降の課題について

- 思考したことを相手や場に応じて分かりやすく表現する力の育成
- 他教科への普及
- 家庭学習の質の向上（家庭学習の工夫、丁寧さの指導）

改善策

- 発達段階に応じたノート指導の充実
- 改善と活用の徹底
- 家庭学習の手引きの見直しと工夫

取組事例②

「家庭における学習習慣の定着に向けた取組」

福山市立瀬戸小学校

(1) 学校の状況について

本校は、広島県の南東部に位置し、全校児童538名、19学級の学校である。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

- ① 全国学力・学習状況調査の結果の分析

【平成21年度全国学力・学習状況調査児童質問紙 結果】

	宿題をしている	予習をしている	復習をしている
市	95.4	37.4	43.5
県	96.3	35.4	43.5
国	95.5	37.5	46.0

福山市の小学校では、平成21年度学力調査の結果、「学習習慣」（宿題、予復習、テスト直し）に課題があることが明らかになった。この結果は、昨年度と同様であり、改善に向けた具体的な取組を行う必要があると考え、家庭での学習習慣の定着をめざした取組を実施した。

②中学校区（中学校1校・小学校3校）の取組

平成20年度、小中学校とそれぞれのPTAが連携をして、9年間の育ちの姿を見据え、児童・生徒の生活習慣や学習習慣を確

立するために、リーフレットを作成し、平成21年度4月に各家庭に配付した。

『済美中学校区：家での3つの約束』

- ① 早寝・早起き・朝ごはん
- ② 家族であいさつ，語り合い
- ③ 家庭でルールを決めて守ろう

平成21年度は、4校の教務主任が集まり、学校評価システムを活用した指導方法の工夫改善をするために『済美中学校区小中連携デザイン』の骨子を作成した。

これをもとに校区で合同夏季研修会をもち、具体策を練り、共通認識をもった取組ができるよう指標を作成した。

③ 学校の取組

『済美中学校区小中連携デザイン』の通り、児童が主体的な学びができるように、家庭学習の習慣化を図るための手引書「家庭学習の手引き」を作成した。

【手引書「家庭学習の手引き」】



各学年で身に付けておきたい力（例）

3年生

- ①句読点に気をつけながら、すらすらと気持ちをこめて読む
- ②3年生の漢字をすべて読み、8割以上を書く
- ③話の中心をはっきりさせて文章を書く
- ④国語辞典を正しく使う
- ⑤かけ算の筆算やわり算の計算が正しくできる
- ⑥コンパスを使って図形をかく

家庭学習で子どもの意欲を引き出すために

1 家庭学習の効用

キーワード

習慣化

- ☆学習習慣の定着
決まった時刻、もしくは一定の問題を解くことを毎日くり返すことによって、学習に取り組む習慣が身に付きます。
- ☆基礎力アップ
漢字練習や計算ドリルなどを毎日くり返すことによって、基礎力がアップします。
- ☆達成感
子ども自身が、できるようになった自分を体感することができます。

2 学習習慣づくりのポイント

- ①決まった時刻になったら机に向かいましょう
- ②机の上には学習用具だけを置くことにしましょう
- ③ながら勉強をしないようにテレビ・ゲームを消しましょう
- ④文字をていねいに書きましょう
- ⑤本に親しみましょう

家庭・保護者のサポートが必要

学習環境づくり

- ・子どもの学習に自信を持たせましょう
- ・子どものがんばりを励まし・認めましょう

学習意欲

3 親子でふれあい、学力アップ

<p>団らんをとおして 新聞やテレビのニュース、今日の学校や家庭での出来事を話題にしましょう。</p> <p>料理づくりをとおして 生活力が養われ、健康にも関心が高まります。</p>	<p>スポーツや遊びをとおして キャッチボールやサッカー、なわとびなど、子どもとともに体を動かし体力アップしましょう。</p> <p>読書をとおして 親子で時間を決めて読んだり、同じ本を読んだりすると共通の話題ができて会話も弾みます。</p>
---	---

4 1週間で1日、ノーゲームデーを決めましょう

ゲームをやめて、親子でゆったり語り合う時間をつくりましょう。

我が家のノーゲームデーは

毎週 () 曜日

これらの手引書には、低・中・高学年ごとに家庭学習ができる環境作り、時間、内容等を記載した。

3学期のスタートにあたり、「やりきろう週間」を設定し、「振り返りシート」による自己評価をさせた。

(3) 成果について

【振り返りシートへの児童の記述】

- ・以前は宿題をするのに時間がかかっていたけど、目標時間を決めたら集中してできた。
- ・ゲームをする日が少なくなり、テレビを見ずに勉強ができるようになった。

(4) 来年度以降の課題について

家庭学習については、反復練習の内容のみではなく、授業で学習したことをもとに、自ら考え、表現する力を付ける内容を工夫したり、家庭学習で出した内容を次の授業で取り上げたりすることに取り組む。また、「家庭学習の手引き」を改善し、活用しながら、家庭学習の習慣と学力の確実な定着をめざしていく。

【済美中学校では】

学習習慣は3点固定で

3点とは、開始時刻・場所・学習時間

- 1 自分で始める時刻を決定
- 2 毎日同じ場所で学習
(机の上には学習道具だけ)
- 3 学習時間をしっかり確保
1・2年生 60分以上
3年生 90分以上